

## 2. 授業評価アンケート調査結果

人間科学研究科では、平成 16 年度より、毎学期末に授業評価アンケートを実施することになっている。平成 17 年度は、前学期 7～8 月、後学期 1～2 月に全科目、全受講学生を対象として実施している。有効回収数は前学期が 2,017 名、後学期が 2,169 名であり、その内訳は以下の表に示すとおりであった。

### 前学期 提出者数の内訳

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無し	総計
院科目	144	106	48	40	37	9	43	427
学部演習	52	14	8	19	27	1	8	129
学部講義	247	296	120	68	130	102	297	1,260
実験実習	39	32	6	16	1	56	3	153
卒業研究	25	11	9	1			2	48
<b>総計</b>	<b>507</b>	<b>459</b>	<b>191</b>	<b>144</b>	<b>195</b>	<b>168</b>	<b>353</b>	<b>2,017</b>

単位は人数

### 後学期 提出者数の内訳

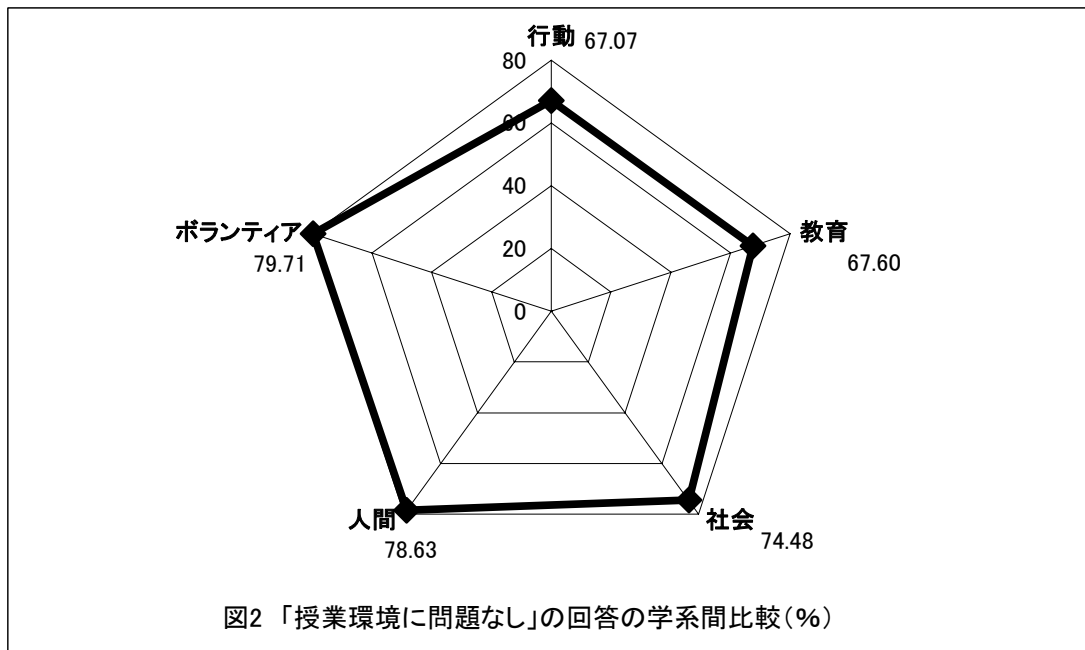
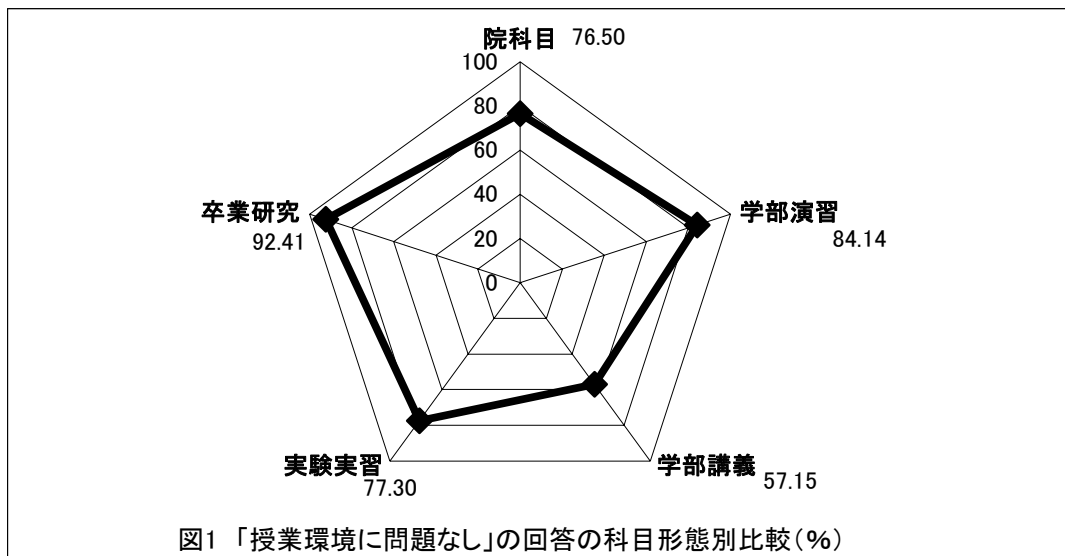
授業形態	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入	合計
院科目	103	106	34	42	26	11	45	367
学部演習	52	40	17	17	2		11	139
学部講義	365	385	178	67	164	93	209	1,461
実験実習	58	46	22	17		2	11	156
卒業研究	16	11	12		1		6	46
<b>合計</b>	<b>594</b>	<b>588</b>	<b>263</b>	<b>143</b>	<b>193</b>	<b>106</b>	<b>282</b>	<b>2,169</b>

単位は人数

この授業評価アンケートでは、授業の満足度、受講を決めた理由、授業環境などが、毎回ほぼ定型の質問文によりたずねられている。回収されたデータは数値化して集計されているが、それぞれの担当講師に対するコメントや要望も同時に自由記述により回収され、個別の授業の改善に役立てられている。

以下、数値化されたデータから重要と思われるポイントについて、集計結果をグラフによって整理しながら示していく。

①授業環境について



●図1、図2は授業環境に関する前後期をあわせた学生の評価の結果である。授業環境については問題なしという回答比率が高い。考えるべき点をあえて挙げるならば、学部講義の授業環境の更なる改善であろう。なお、授業環境については学系別の差異はみられない。

●表1、表2、図3、図4は、2005年前期、後期それぞれにおける授業環境についての学生の要望を所属系別に示したものである。回答の割合は少ないものの、室温の調整、モニターの見やすさを問題にする学生がいることには留意する必要があるであろう。他大学に比べて、私語を指摘する者はきわめて少ないのは、特徴的である。前期後期を比べると、モニターの見にくさが教育、行動系で後期に増加している。

表1 2005年前期「改善してほしい授業環境」の学系間比較(%) (複数回答)

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入
問題なし	64.9	69.7	63.4	66.7	73.3	41.1	41.1
マイク	0.6	2.4	1.6	0.7	0.5	3.0	4.8
モニタ	3.4	6.3	5.2	4.2	4.6	13.7	5.9
照明	2.4	0.9	3.1	0.0	0.0	2.4	1.4
教室サイズ	3.2	4.4	4.2	2.8	4.6	17.3	22.4
椅子机	2.6	1.1	3.1	2.1	1.0	4.2	5.7
室温	7.1	9.2	7.9	6.9	5.6	14.9	11.3
騒音	1.6	0.4	1.0	0.7	0.0	1.8	0.8
私語	0.2	1.1	4.2	0.7	0.5	8.3	9.9
携帯電話	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	3.6	1.1
人数	507	459	191	144	195	168	353

表中の単位は回答者数に対する%

表2 2005年度後期「改善してほしい授業環境」の学系間比較(%) (複数回答)

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入
問題なし	62.46	60.88	64.02	68.97	70.10	35.85	50.70
マイク	2.36	2.21	0.76	1.38	2.06	11.32	7.04
モニタ	7.91	13.95	6.06	4.83	5.15	13.21	9.15
照明	2.02	2.38	0.00	0.69	0.00	1.89	1.76
教室サイズ	5.22	4.59	2.65	2.07	4.12	11.32	3.87
椅子机	4.88	2.04	0.00	2.76	1.55	4.72	2.46
室温	11.11	8.84	5.68	4.14	5.15	28.30	11.27
騒音	1.35	0.17	0.38	0.00	0.52	0.94	0.35
私語	1.52	1.02	0.00	2.07	1.03	13.21	2.46
携帯電話	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.94	0.00
人数	588	565	209	125	174	129	251

表中の単位は回答者数に対する%

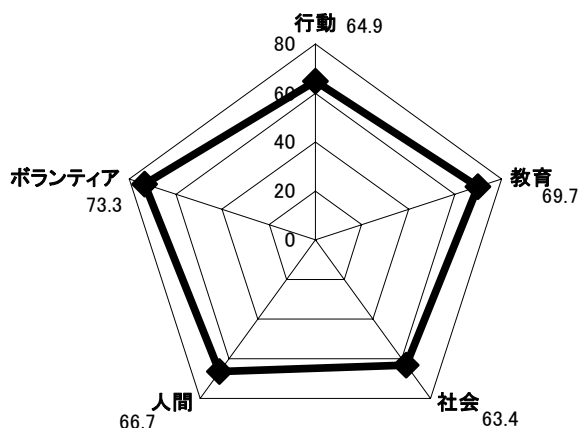


図3 2005年前期「授業環境に問題なし」の回答の学系間比較(%)

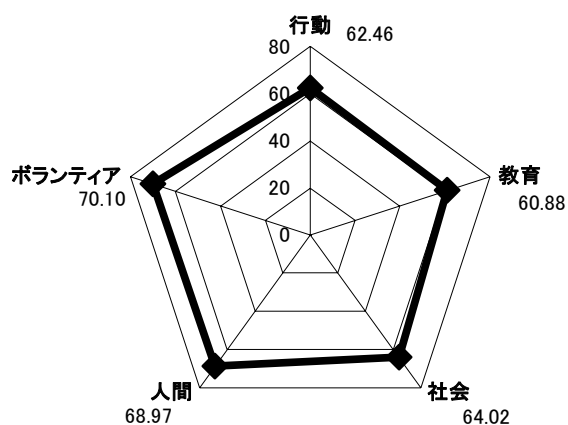
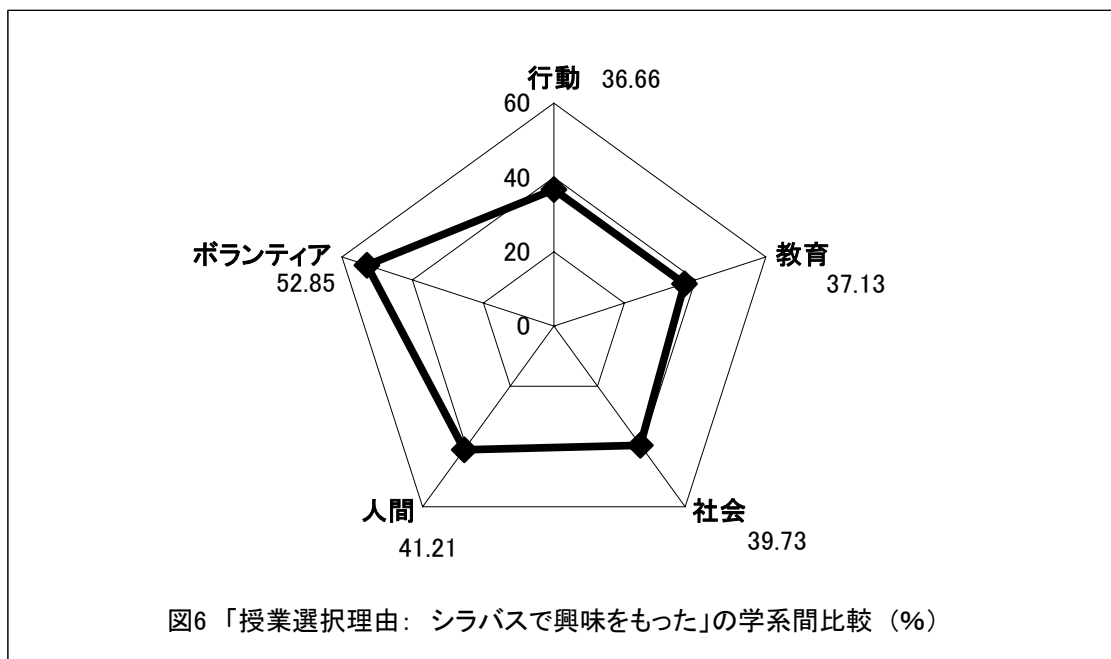
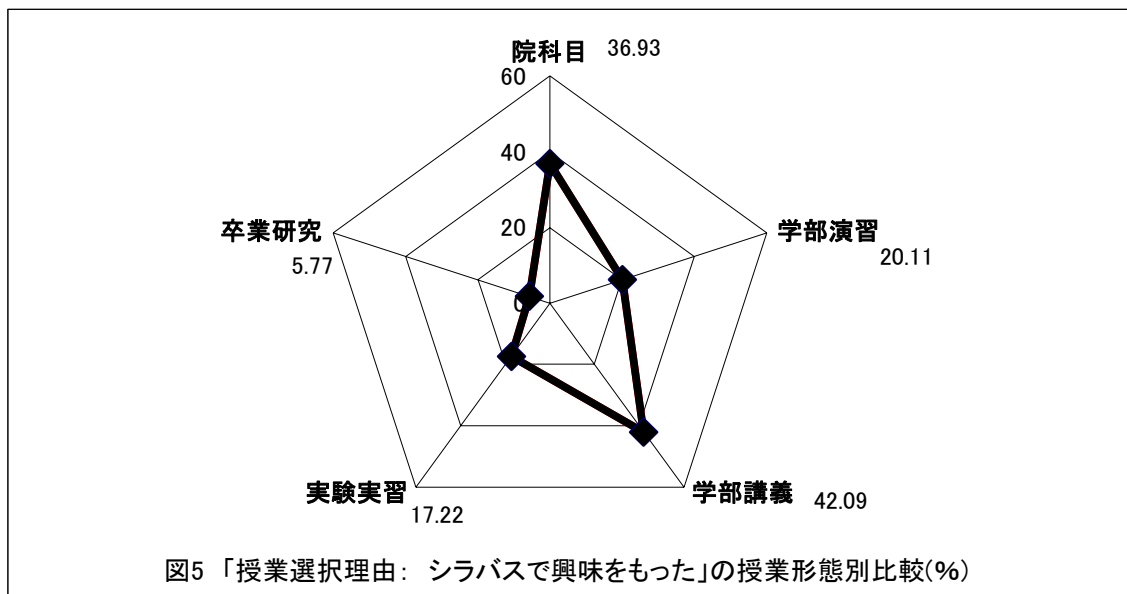


図4 2005年後期:「授業環境に問題なし」の回答の学系間比較(%)

②授業選択理由について



●図5、図6はシラバスが有効に利用されているかどうかを示すために、受講を決めた理由として「シラバスに興味をもった」という項目が選択された率を、前後期あわせて示したものである。グラフをみると、学部講義・院科目についてはシラバスが有効に利用されていることがわかる。しかし個別の内容に特化した、学部演習、実験実習、卒業研究に関しては、シラバスは興味の源泉になってはいないといえる。学系間の比較では、共生学系（ボランティア）においてシラバスが有効利用されていることがわかる。

表3 2005年前期 授業選択理由の学系間比較(%) (複数回答)

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入
必須科目だから	46.60	35.19	22.92	36.11	23.20	59.41	63.20
講義要項(シラバスで興味)	50.00	54.57	60.94	62.50	72.16	34.12	30.62
資格取得のため	2.20	14.25	12.50	4.86	1.55	4.71	3.37
先輩・友人から薦められ	3.00	3.34	2.08	2.78	3.09	5.88	3.37
将来(就職・進学など)に役立つ	5.60	13.81	4.69	6.25	10.82	13.53	5.34
単位が取りやすい	0.60	2.23	7.29	0.69	3.09	5.88	3.37
時間割の都合	22.00	31.85	39.58	22.92	22.16	8.82	10.39
その他	2.00	2.00	3.13	1.39	2.58	4.71	1.69
人数	500	449	192	144	194	170	356

表集の単位は回答者数に対する%

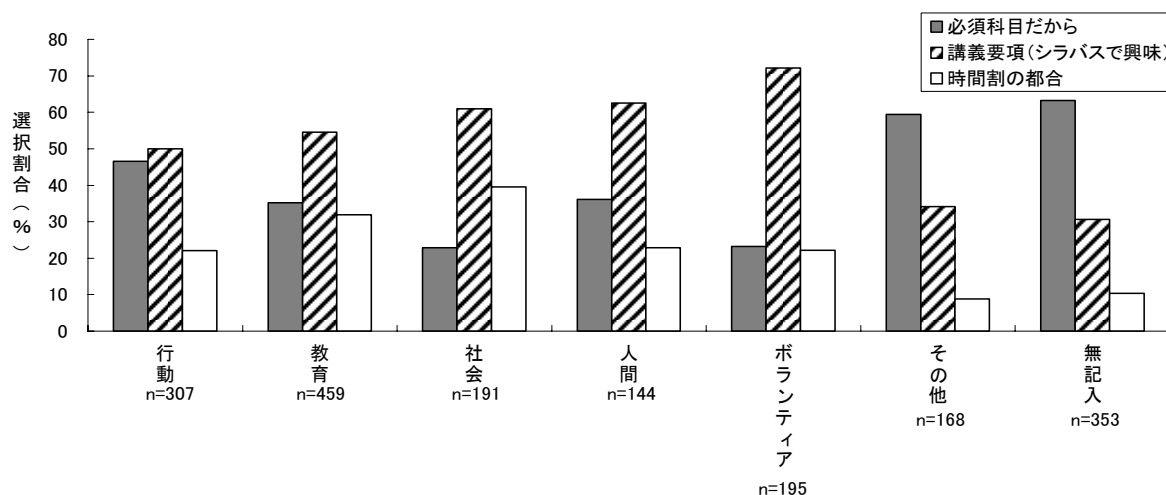


図7 2005年前期 授業選択理由の学系間比較(%)

表4 2005年後期 授業選択理由の学系間比較(%) (複数回答)

	行動	教育	社会	人間	ボランティア	その他	無記入
必須科目だから	40.07	30.10	25.86	45.45	14.51	39.62	47.52
講義要項(シラバスで興味)	53.70	59.01	58.17	50.35	70.98	50.94	36.52
資格取得のため	4.04	9.86	10.27	3.50	2.07	2.83	3.90
先輩・友人から薦められ	6.40	3.91	4.18	3.50	3.11	2.83	3.90
将来(就職・進学など)に役立つ	11.95	11.73	8.75	9.09	8.29	23.58	21.99
単位が取りやすい	3.03	2.89	4.18	0.70	1.55	0.00	1.42
時間割の都合	30.81	31.46	32.70	25.87	27.98	11.32	13.12
その他	0.51	1.53	1.90	0.70	3.63	10.38	2.48
人数	894	885	384	199	255	150	369

表中の単位は回答者数に対する%

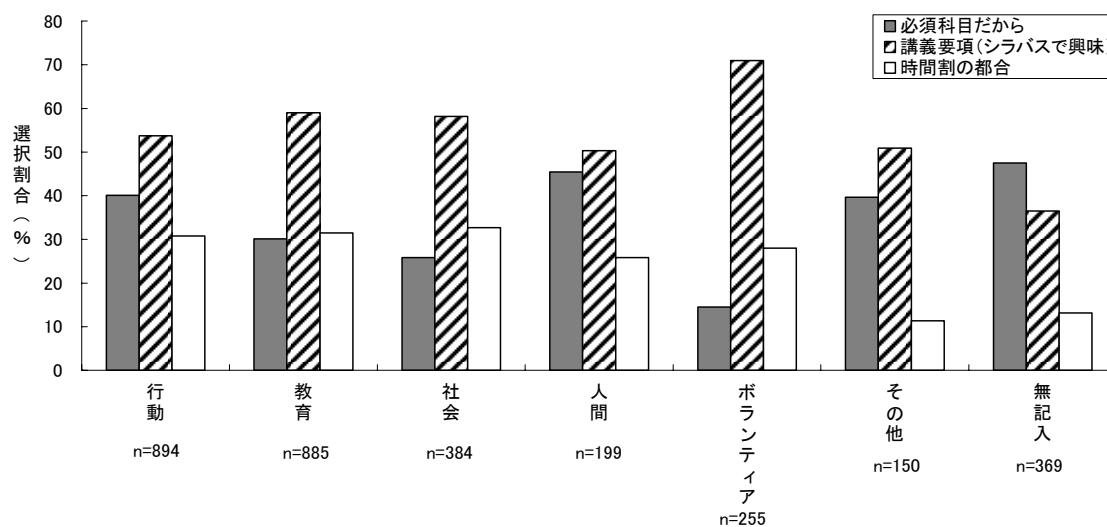


図8 2005年度後期 授業選択科目の学系間比較(%)

●表 3、表 4 は前後期それぞれの授業選択理由に関する学系別の結果である。なお、図 7、図 8 はそのうち「必須科目だから」、「講義要項（シラバスで興味）」、「時間割の都合」のみ取り出しグラフに示した。前期では社会学系で、「講義要項」を理由とする者がきわめて多かったが後期ではその割合は急減している。一方、共生系（ボランティア）では高率を維持している。社会学系の科目編成に考慮すべき点がある可能性もあろう。他の選択理由については学系間に大きな違いはなく、類似している。

表5 2005年前期 授業選択理由の科目形態間比較(%) (複数回答)

	院科目	学部演習	学部講義	実験実習	卒業研究
必須科目だから	48.48	71.32	30.63	83.66	100.00
講義要項(シラバスで興味)	63.70	30.23	52.86	24.84	8.33
資格取得のため	7.73	3.88	6.83	4.58	0.00
先輩・友人から薦められ	5.39	3.10	2.54	4.58	0.00
将来(就職・進学など)に役立つ	14.75	9.30	5.56	15.03	4.17
単位が取りやすい	1.17	0.00	3.89	0.65	2.08
時間割の都合	7.26	10.08	33.10	3.92	0.00
その他	2.11	2.33	2.38	2.61	0.00
人数	427	129	1260	153	48

表中の単位は回答者数に対する%

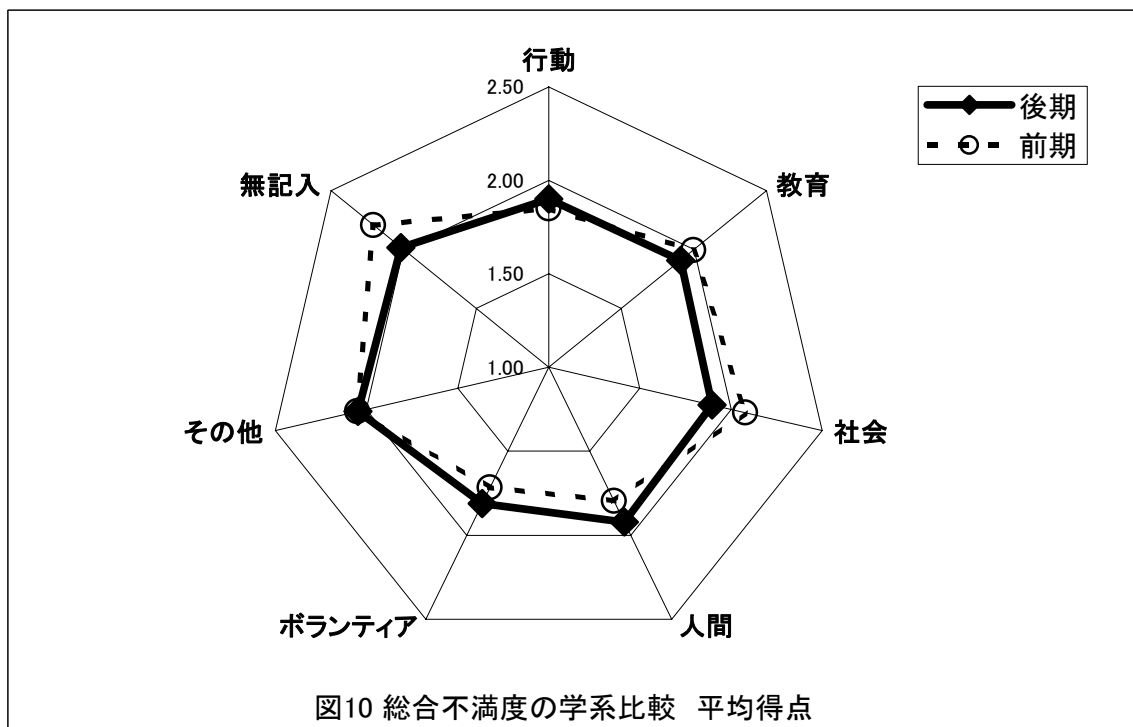
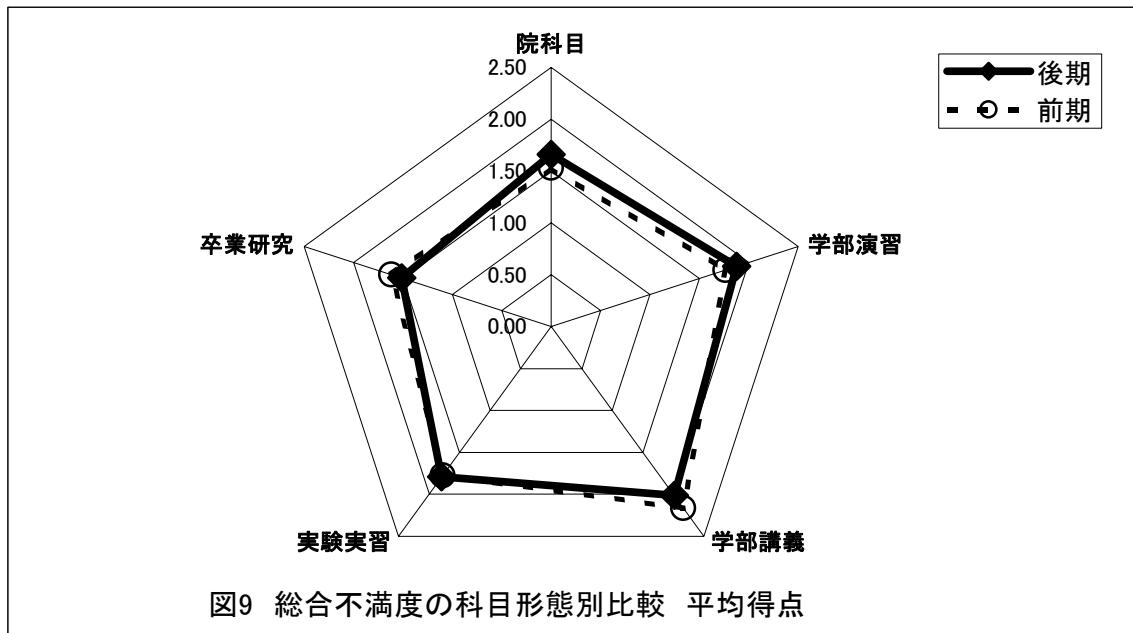
表6 2005年後期 授業選択理由の科目形態間比較(%) (複数回答)

	院科目	学部演習	学部講義	実験実習	卒業研究
必須科目だから	53.68	64.03	18.96	92.31	97.83
講義要項(シラバスで興味)	50.41	25.18	63.38	23.08	6.52
資格取得のため	2.72	4.32	7.53	3.85	0.00
先輩・友人から薦められ	5.99	5.76	4.45	1.28	0.00
将来(就職・進学など)に役立つ	11.44	17.27	13.21	10.26	8.70
単位が取りやすい	1.09	1.44	3.29	0.00	0.00
時間割の都合	8.72	7.19	37.51	2.56	0.00
その他	2.45	0.00	2.26	0.64	0.00
人数	501	174	2200	209	52

表中の単位は回答者数に対する%

●表 5、表 6 は科目形態別に授業選択理由の回答率を示したものである。前期後期は類似の選択理由パターンを示している。「講義要項（シラバス）で興味を持った」からという理由は、学部講義と大学院科目では 50%以上で選択されている。前期後期を比較すると、学部講義で、「将来に役立つ」との理由がやや上昇している。また、「時間割の都合」という便宜的な理由が 30%を超えていることは、時間割編成に工夫が必要であることを示唆している。

### ③授業の満足度について

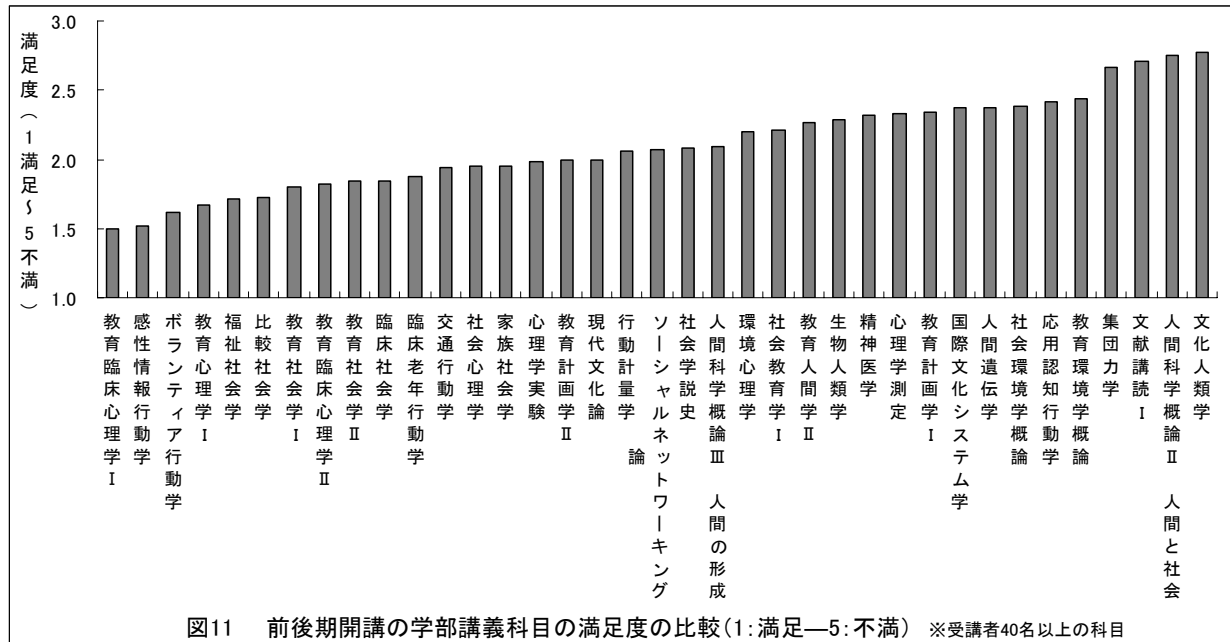


●図 9、図 10 は授業の満足度について結果をみたものである。ここでは大きな差異はみられないが、あえていえば、学部講義で不満度がやや高くなっていることを指摘できる。前学期、後学期で大きな傾向の差異はみられない。

#### ④総合満足度の比較

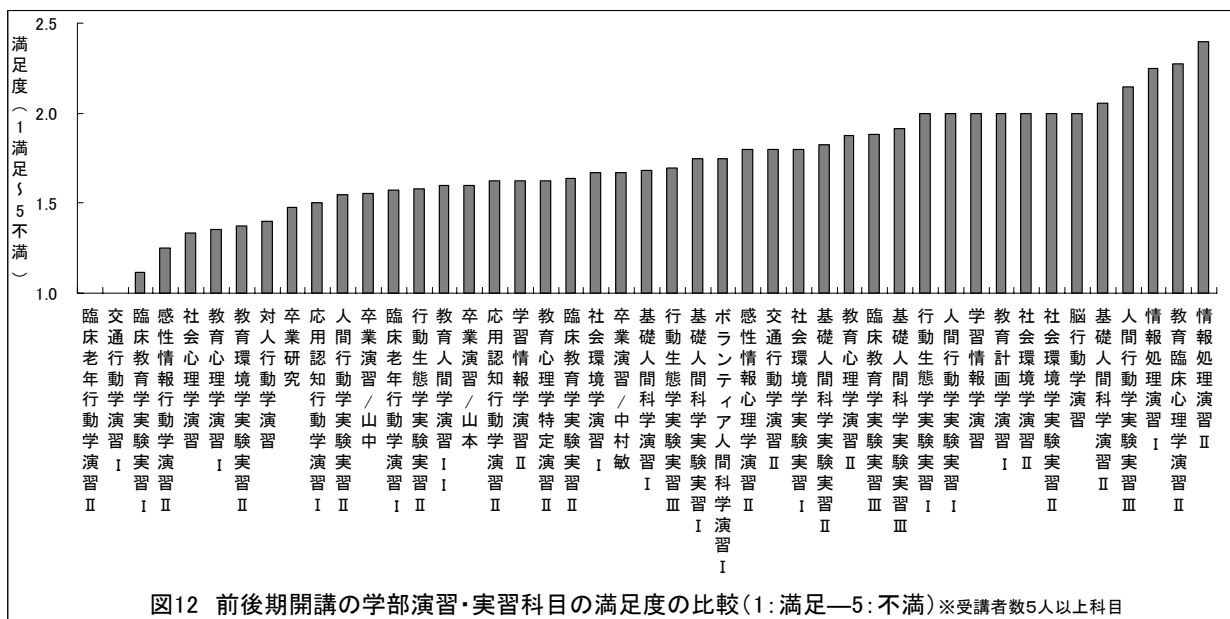
##### 学部科目

図11に前後期開講の学部講義科目に関する満足度、図12に演習・実習形式の科目に関する満足度を示した（数値が低いほうが満足度が高いことを示す）。図12には受講者数5人以上の科目のみ掲載した。



##### ●講義

満足度平均値2以下（高度に満足）とされた科目は、教育臨床心理学I（63名）、感性情報行動学、ボランティア行動学、教育心理学I、福祉社会学、比較社会学、教育社会学I、教育臨床心理学II（84名）、教育社会学II、臨床社会学、臨床老年行動学、交通行動学、社会心理学、家族社会学、心理学実験（103名）の15科目である。このうち、社会学系科目が6、次いで、行動学系科目が5、教育学系科目が3、共生学系科目が1であった。



##### ●実習・その他



いずれも高度に満足度が高い（左端 2 科目は 1.0 点）。講義科目と大きく異なる特徴は、少人数で経験・実践という密度の高さが学生のコミットメントを高め、内在化されるものが多く、それが満足度を高めるものと考えられる。満足度の高いこれらの科目群の中でも特に、行動学系、教育学系の科目の満足度が高いことが知られる。

## 大学院科目

回収できた前期後期科目 91 のうち、対人社会心理学特定研究Ⅰ、比較福祉論特講Ⅰ、グローバル社会学特定実習Ⅰ、教育文化学特定演習Ⅱ、行動データ科学特講Ⅱ、グローバル社会学特定実習Ⅱ、社会保障政策論特講Ⅱ、比較福祉論特講Ⅱ、社会保障政策論特講Ⅰ、社会学説史特講、異文化理解特講、科学基礎論特定演習Ⅰ、国際ボランティア学特講、対人社会心理学特講Ⅰ、比較発達心理学特講Ⅰ、リスク人間科学特講Ⅰ、教育文化学特定研究Ⅱ、感性情報心理学特定演習Ⅰ、基礎心理学特講Ⅱ、人間と文化特講、対人社会心理学特定演習Ⅱ、対人社会心理学特定研究Ⅱ、地域共生論特別研究Ⅱ、教育文化学特定研究Ⅰ、行為と倫理特講、臨床心理面接特講Ⅰ、人格心理学特講、コミュニケーション社会学特定演習Ⅰ、学校社会学特講、教育心理学特講は、平均値 1.47 以下の科目であり、満足度が高い。いずれも少人数ではあるが、共生学系、教育学系、社会学系、行動学系の科目が多く見られる。